

5. 板宿駅 <板宿八幡神社>

「板宿」と呼ばれる由縁は昌泰4年（西暦901年）菅原道真公が九州左遷の際、立ち寄られ、板で囲った簡単な宿所を設けたことによる。

板宿八幡神社は山陽電車板宿駅から北に約900mの須磨学園西隣にあり、永延元年（西暦987年）に菅原道真公と武神八幡大神を鎮守神として創祀された。産業や治水の神さまとしてお祀りされていた池之宮明神（鳴滝明神）のご祭神は大日靈貴命（オオヒルメノムチノミコト）、別名が天照大御神で、現在の明神町1丁目に鎮座されていたのが明治41年に合祀された。

当神社には高さ30mもあったとされる「飛松」があった。大正時代の落雷で枯死し現在は切株（右下写真）が右上写真の祠に奉斎されており、「大宰府の飛梅」と並び「板宿の飛松」と慕われている。

菅公が「梅は飛び 桜は枯るる 世の中に 何とて松のつれなかるらむ」と詩を詠まれると、一夜にしてこの地に松が飛来してきたそうです。神社周辺の「飛松町」「飛松中学校」等の名はこの伝説にちなんだものです。（谷口耕造 記）

参考：板宿八幡神社へようこそ
<https://itayadohatiman.jimdo.com/>

